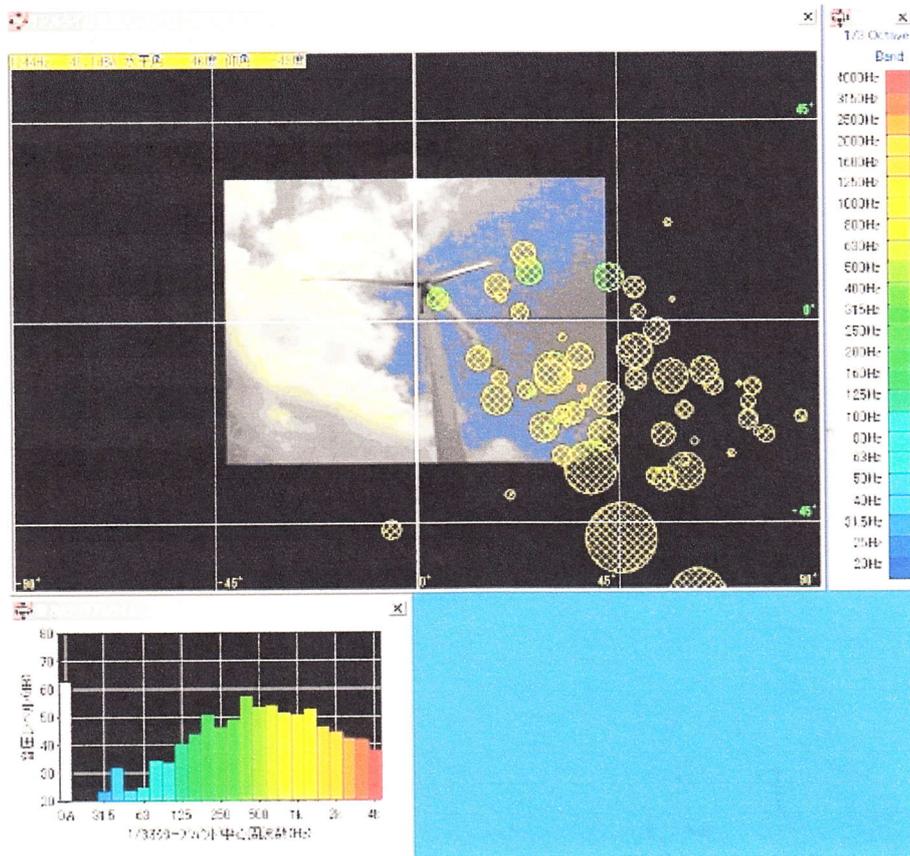


システム系統図



既存の調査データを詳細に分析している例

発電用風車の左下付近から200Hz～1kHz付近の音  
(ブレードの風切り音)が発生しているのがわかる。

3.特徴

今回開発した「小型リアルタイム音カメラ」は、以下に示す特徴があります。

- ①ソフトウェアのアルゴリズムを大幅に見直して最適化し、高速処理を実現しました。  
これまでは難しかった、リアルタイム表示を行いながら測定データを保存することもでき、後から詳細な分析を行うことが可能です。
- ②マイクロホン部分を見直して大幅に小型化しました。従来の音カメラは100～4500Hzまで測定できましたが、本システムでは160～7600Hzまで測定が可能です。
- ③マイクロホンとカメラを装備したセンサ部分を大幅に小型化しました。また制御部分も大きめのアタッチケースサイズになり、可搬性に優れております。

本装置の利用により、発生音の情報を容易に、また即座に確認することができ、音環境調査等で作業効率や信頼性が向上します。

4.今後の展開

音源の位置をリアルタイムで把握していく必要があるメーカーや設計事務所、コンサルティング会社などに本技術を積極的に提案していく予定です。

[お問い合わせ先]

[本リリースに関するお問い合わせ先]  
株式会社 熊谷組 広報室